

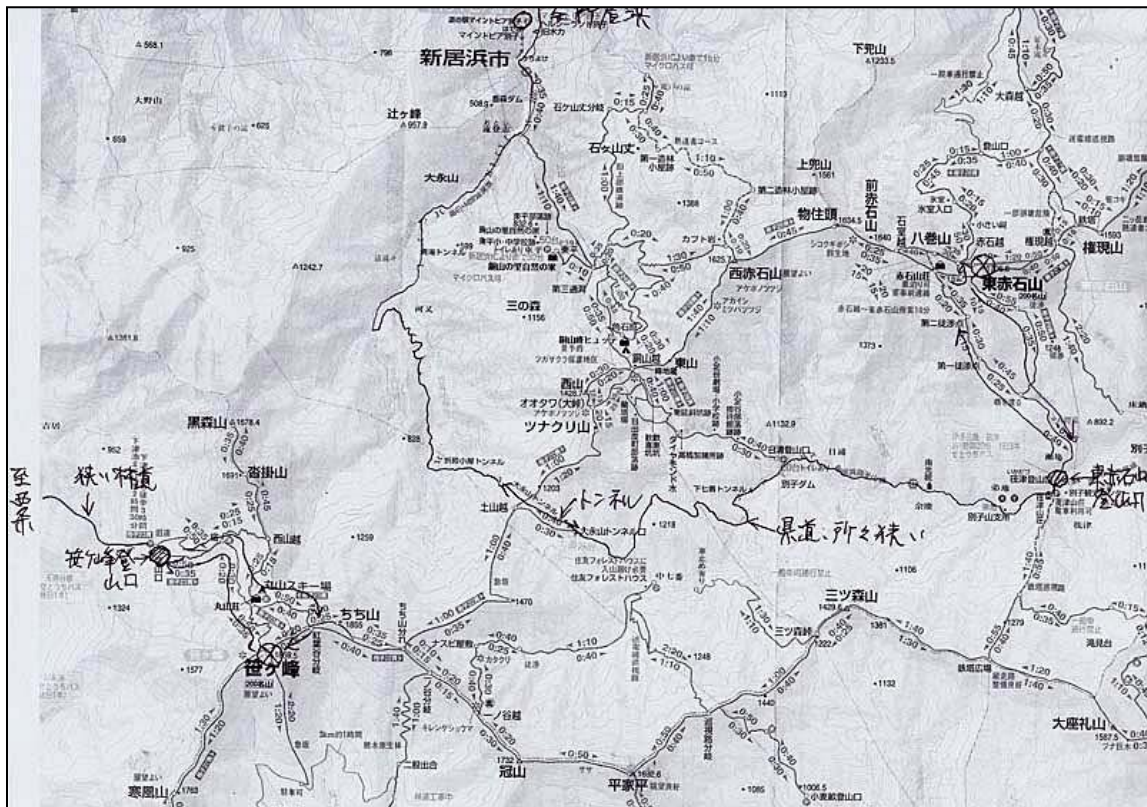
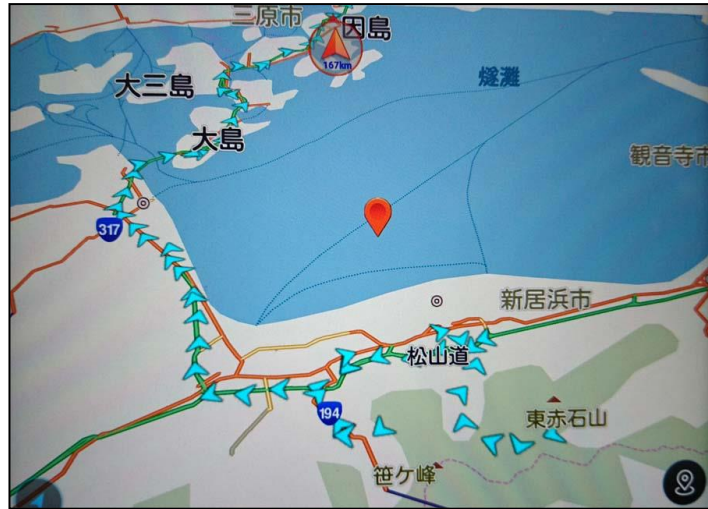
# 四国の二百名山踏破

記 藤井 諭

7月27日(水)～28日(木)に、四国の日本二百名山である笹ヶ峰と東赤石山に登ってきた。今回は自家用車で1泊2日の強行軍だったが、これで四国の百名山と二百名山を踏破でき、とても満足行く山旅だった。

一日目は早朝5時に自家用車で松江を出発、松江道・尾道道を経て初めてしまなみ海道に入った。懐かしの尾道道を通り、因島で高速道路を降りて一般道を走るととても大きな島だと実感する。瀬戸内海で有名な村上水軍、そのお城に興味をそそられ砦に登ってみた。高速に戻って来島海峡大橋を渡ると、いよいよ四国上陸だ。

カーナビの地図が古かったので、今回はタブレットにカーナビアプリをインストールし車に固定し使った。図のようにタブレットは画面が10インチと大きく、また最新の地図情報でガイドしてくれ、初めてのルートを楽しんでドライブをすることができた。



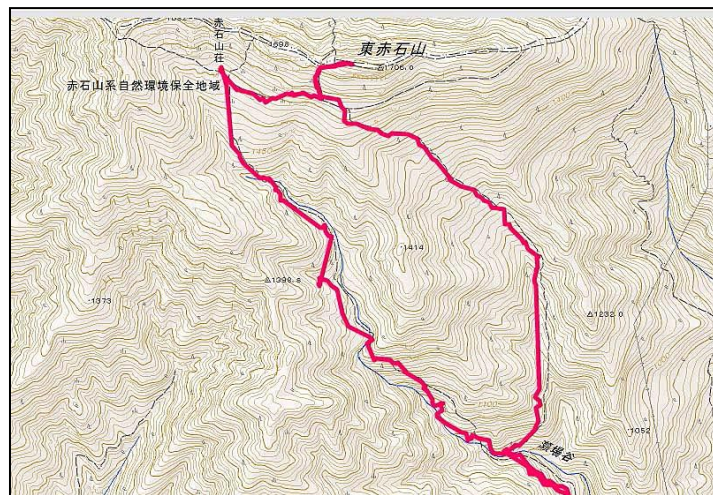
地図左の笹ヶ峰の林道に入ると、狭い砂利道が約40分続いた。登山口の2キロ手前で土砂崩れの通行止めとなり、車が3台置かれている。上図は山旅ログの今回の軌跡である。歩き始めたのが11時で、40分かかってやっと登山口に着いた。途中の「宿」は足尾銅山の昔の作業場だそうで、ここで始めて登山者4人と出会う。丸山荘に到着したのが11:40、誰もいないベンチでエネルギーを補給する。ここから紅葉谷

コースを取り、急坂を峠まで登る。ここで一気に笹原が広がり、「ちち山」が名の通り色っぽくそびえる。そして15時にやっと山頂に到着、予想より長く疲れた。笹ヶ峰は大山より150m高く、日本二百名山であると共に石槌山、瓶ヶ森と並ぶ伊予三名山。山頂部は広大な笹原でボリュームの大きな山だった。ガスで遠くは見えなかったが、天気良ければ大展望が得られる。

下山は日没との競争だった。日本二百名山のガイドでは半日コースとあるが、それは田中陽希タイムであり1日コースで計画すべきと思う。この日は伊予西条駅近くのホテルに泊まり疲れを取った。



二日目の東赤石山も自家用車で、西条から筏津の登山口まで県道47号線をくねくねと大永山トンネルの峠越えで1時間半かかった。地図で上から右への長いルートにあたる。逆方向で新居浜から路線バスもあるが、時間が掛かり本数も少ない。東赤石山は別子銅山の近くにあり、登山口までの途中で精錬所跡である道の駅マイントピア別子に寄った。レンガ作りのクラシッな建物だった。



登山口の筏津山荘の駐車場に車を置き7時半に出発。図は今回の軌跡で、瀬場谷分岐から谷沿いに赤石山荘へのコースをとる。滝の高巻きと沢の徒渉を繰り返し、森林帯を抜けるとロックガーデンの花畑が広がった。展望が一気に広がると、この山塊は赤色の山肌が独特であることがわかる。岩の危険な八巻山を避け、東赤石のコルへ抜ける道を慎重に登る。岩は赤い“かんらん岩”で、銅が混ざっているのかぶつけると痛いほどの硬さだ。ここで始めて登山者6人に会い、12:40についに東赤石山に登頂。山頂からの大展望は正面に前日登った笹ヶ峰、奥に伊予富士その奥に瓶ヶ森、石槌山まで見えた。下山したのは16:20、これから長距離ドライブで松江まで帰らなければならない。

東赤石山は1707mで大山とほぼ同じ高さだが、ハードさでは相当に勝る。登山口から戻るまで8時間もかかった。日本二百名山のガイドは田中陽希タイムであり、丸一日のコースで計画すべきと思う。下山して16時、明るいうちにダートの林道を抜けて新居浜に戻り、さらにしまなみ海道、やまなみ街道を飛ばして自宅着は22時になってしまった。自家用車で一人だと自由だが、団体で行く時は余裕を取って2泊が必要と思う。バスでは入れない登山口もあり注意が必要だ。

この山行の記録はクラブホームページのトピックス(次のURL)に掲示しており、写真でご覧いただくとイメージでわかり易いと思う。

[http://www.geocities.jp/matsue\\_hiking/topics/chushikoku/shikoku.htm](http://www.geocities.jp/matsue_hiking/topics/chushikoku/shikoku.htm) (終)